



令和7年度 「特色ある学校づくり対策事業」実践事例

佐世保市立世知原中学校



令和7年度世知原中龍踊復活プロジェクト
記念イラスト 令和7年度卒業生作成

所在地 佐世保市世知原町栗迎132番地1

校長 市田 恒明

生徒数 48名

学級数 5学級

<学校教育目標>

ふるさとを愛し 未来を切り拓く生徒の育成

<校訓>

自主 創造 友愛

1 テーマ

驚きや感動、価値ある体験活動を通して、自己肯定感とコミュニケーションスキルの育成を図り、地域とともに進化・活性化する学校づくりを推進する。

2 目的

様々な体験活動を通して

- (1)自ら課題を発見し、進んで解決していこうとする態度を育てる。
- (2)道徳教育との関連を図りながら、道徳的実践力を培う。
- (3)生徒自身の手で企画・運営させることで、生徒の自主性・自立性を育成する。
- (4)学校・家庭・地域社会の連携を図り、家庭・地域の教育力を発揮する場を設定することで、開かれた学校・地域とともにある学校づくりを推進する。
- (5)共に生きる心や感謝の心を育むとともにコミュニケーション能力の向上を図り、望ましい人間関係を構築させる。

以上を充実させ

学校教育目標

「ふるさとを愛し 未来を切り拓く生徒の育成」の具現化を図る

3 実践内容



(1) 地域連携の推進

本年度で6年目となった起業体験学習は2年生を中心に取り組みました。今年度はこれまでの活動をもとに、「世知原に活気と元気を届けよう」と新たな取組である「オープニングセレモニー」を実施し、来場された方を大いに盛り上げました。商品開発部では、地元のデザイナーの方にご協力いただき、「エコバッグ」、「水筒ポーチ」、世知原中オリジナルキャラクターのキーホルダーが入った「カプセルトイ」を作りました。

また、毎年恒例のカレンダーでは、株主の方や地域の方から世知原町の写真を募集し、卓上カレンダーとして販売しました。利益の一部を地元の祭りや福祉へと活用していただくための寄付金としています。

これらの活動により自主性、自立性を育成することができ、生徒の情報収集・分析力やコミュニケーション能力が向上するだけでなく、成就感を得ることができ自己肯定感の向上につながりました。



(2) 郷土愛の醸成

世知原町竜踊保存会より、世知原くんちで披露されていた竜踊用の龍を寄贈していただき、「世知原中龍踊復活プロジェクト」として龍踊りの復活に取り組みました。1、3年生が中心となって昼休み等を利用して練習を重ね、10月29日の世知原くんちで披露することができました。

また、記念のイラストを生徒が考案し、配色、編集を地元のデザイナーの方にご協力いただき完成させることができました。

「世知原に活気と元気を届けよう」との目標のもと、互いに協力しながら活動することにより、郷土愛を高めるだけでなく、共に生きる心や感謝の心を育み、コミュニケーション能力、自己肯定感の向上につながりました。



(3) いのちかがやく強調月間

校長講話では、「いのちをかがやかせるお話」と題し、「いのちをかがやかせるのは利己と利他のどちらの心だろう。」という問いから、一人一人が持つ「しあわせのバケツ」をいっぱいにするためにどのような生き方をしていくのかについて、それぞれ考えました。

道徳の公開授業では、学級の実態に応じた「いのち」を主題にした授業を実施しました。また、今年度も佐賀県の実業家「徳永義昭氏」を招いて、自身の「ラ・カンパネラ」習得から得た経験をもとに「努力を継続」すること、「報われるまで努力する」ことの大切さについて講話をしていただきました。メディア講演会では県のメディア安全指導員の方の指導を受け、夏休み前に安全なメディアと接し方について学びました。

3 実践内容



(4)自己肯定感、ソーシャルスキルの向上

自己理解や他者理解を深め、表現力やソーシャルスキルを高めることを目的として、毎週火曜日に「Sタイム」と名付けた15分程度のコミュニケーション活動を行いました。継続して取り組むことで、職員と生徒、生徒と生徒のつながりが強くなり、充実した時間となりました。

生徒の変容は、各種調査や2学期末に再度実施した心の状況調査(iチェック)により確認し、心のエネルギーや気持ちを伝える力、他者を思いやる力などの向上が見られました。結果をもとに教師側も自らの指導を振り返り、現在の課題や実践事項を共有しました。課題を3学期の指導に生かすことで、進学、進級に向けて個に応じた指導ができました。



(5)外部講師を活用した学習活動

家庭科の保育の授業において、地域の保育園の協力により保育実習を行いました。実際に園児とふれあう実習を行うことで、教育効果が向上しました。

体育科では柔道の授業において、地域の柔道クラブの指導者の方の協力を得て、柔道の授業を行いました。専門的な指導で生徒の技術向上のみならず職員の指導力向上にもつながりました。

国語科では、6月には読解力・要約力・文章表現力のスキルアップをねらいとした取組として、新聞社から講師をお招き、「伝える楽しさ文章で」の演題で講義・演習を行いました。

また、10月には図書司書から学校司書の視点から読解力に関する講話をしていただきました。「5W(いつ・どこで・だれが・何を・なぜ)」「1H(どのように)」を意識することで、文章を読み取る力や整理する力を高めました。



(6)平和教育・人権教育の推進

「6.29」平和集会では、佐世保空襲を語り継ぐ会より講師をお招きし、空襲の概要や戦争の悲惨さ、そして今の生活がいかに平和なのかという講話を聞きました。

また、「8.9平和集会」では3年生による「なぜ、大きな戦争が起こり、どうすれば戦争を防ぐことができたのか。」という意見発表のあと、長崎原爆に関するアニメーション映画を視聴しました。平和学習を通して、戦争の怖さや悲惨さ、恒久平和への思いを強くしました。

人権集会では、世界人権宣言第1条にある「理性」と「良心」、そして「同胞の精神」について理解し、その後、グループワークとして「差別に出会ったとき、どのような行動をとったらいいのか。」という問いを通して、人権や差別について考えを深めました。

さらにカナダで始まった「ピンクシャツデー」の趣旨に賛同した生徒会を中心として、「世知原中学校ピンクシャツデー」を実施しました。いじめをなくすための行動を起こし、いじめを絶対になくす、という思いを強くしました。各取組を通して人権意識の高揚につながり、校訓の「友愛」の精神を高めることができました。



3 実践内容



(7)健康安全学習の推進

今年度もチャレンジメディアコントロール週間を設定し、自らの意思でメディア利用を制限する取組を行いました。上級生になるほど高難易度に挑戦し、メディアの使用時間を適切にコントロールすることの大切さを理解することができました。

また、産婦人科医による「性教育講演会」では、「身体と心の大切な話～思春期の体と心について～」と題した講話を行っていただき、性に関することについての知識などを深めることができました。

薬物乱用防止教室では、薬物の怖さや誘われた時の対処法(断る、その場から逃げる、身近な大人に相談する)を学びました。

3回目の避難訓練では、警察の方をお招きして不審者対応の訓練を行いました。「身近にある危険」について理解し、その後、腕をつかまれた時や後ろから抱きつかれた時の対処法(簡単な護身術)を学びました。各活動を通して、生命を大切に、自分を律する力の必要性を再確認することができました。



(8)野外宿泊活動における自然学習

9月は野外宿泊活動として、世知原少年自然の家での宿泊学習を行いました。飯盒炊飯、レクリエーション、沢登り、そして初のテント泊等の活動を通して、豊かな自然の中、お互いに助け合い、協力し合うという集団生活の大切さなど多くのことを学びました。周囲と協力していくうえで大切なワード「ありがとう」が多くの場面で見られ、地元世知原の魅力を再発見するだけでなく、周囲への感謝の気持ちを高めることができました。



(9)愛校心の醸成

各種行事や大会等で世知原中学校をアピールする横断幕がなかったため、今年度、世知原中学校横断幕と幟を作成しました。今後は、大いに活用したいと思います。あわせて、生活面のスローガンである「せ・ち・ば・る」の幟も作成し、幟を設置している校門から生徒玄関までの道を「せちばるロード」と命名し、朝から生徒会役員の元気な挨拶と笑顔があふれ、気持ちの良いスタートを切ることができています。

また、世知原中学校に大きく貢献した卒業生へ最大の敬意を表して、卒業記念の桜の植樹を行い、新たな卒業式用のフォトスポット幕を購入しました。

さらに、今年度も卒業生の座席を壇上に配置して卒業式を実施しました。これらの活動により、世知原中学校との思い出を育むことで、愛校心の醸成につながりました。